

2025年度第1回音環境運営委員会議事録（案）

記録：山内崇（幹事）

日時：2025年7月2日（水）17:30～20:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：川井敬二(主査)、岡本則子(幹事)、山内崇(幹事)、池上雅之、竹林健一、上野佳奈子、安田洋介、田中学
坂本慎一、羽入敏樹、佐久間哲哉、富田隆太、中澤真司、濱田幸雄、エバンズ直子、平栗靖浩、小柳慎一郎
森長誠（順不同、敬称略）

欠席者：古賀貴士（敬称略）

提出資料：

- 資料1-0 2025年度第1回音環境運営委員会__議事次第
- 資料1-1 2024年度第5回音環境運営委員会議事録(案)
- 資料1-2 2025AIJ音環境運営委員会委員リスト
- 資料1-3 第1回環境工学本委員会資料
- 資料1-4-1 室内音響_国土交通省社整審「意見箱」について
- 資料1-4-2 室内音響_実施計画書（室内音響チュートリアル）
（追加）資料1-5 大会オーガナイズドセッション履歴

1) 前回議事録の確認

- ・ 原案通り承認された。（資料1-1）

2) 委員紹介およびホームページについて（資料1-2）

- ・ 初年度第1回にあたり、新メンバーを含めた委員の自己紹介が行われた。
- ・ 音環境運営委員会のホームページについて確認が行われた。
- ・ 以下の修正点が報告された。未対応のものは追って対応する予定。
 - 実務的遮音計算方法WGが企画・広報WGに移行。
 - 吸音設計AIJES検討WGが企画刊行運営委員会傘下の刊行小委員会に移行。
 - 記述訂正。誤：室内音響啓発コンテンツ企画WG、正：室内音響啓発コンテンツWG
 - 集合住宅音環境AIJES検討WGは、刊行小委員会に移行し、オフィス音環境AIJES検討WGが新設。
 - 小委員会のメンバーリストで幹事や退任者が更新されていないところがあるとの指摘があった。
→各小委員会とWGのメンバーリストを把握できていないため、追って各小委員会とWGに現在のメンバー構成のデータ提供を依頼する。提供されたデータをもとに、ホームページの修正をまとめて事務局に依頼、または幹事団で修正する。

3) 環境工学本委員会の報告（資料1-3）（報告事項に伴う議事を斜体で示す）

- ・ 環境工学本委員会の2025年度年間予定、運営委員会への依頼事項・提出日程が示された(p. 141)。
(これに伴い、音環境運営委員会は本委員会同日9/30、11/21、3/13に開催予定とする)
- ・ 環境工学本委員会名簿と環境工学委員会組織構成が示された(p. 9-11)。
- ・ 2026年度開始特別研究委員会の設置提案の募集(p. 21-p. 30)
- ・ 2024年度開催シンポジウムの結果が示された。収支の差額は次年度予算に繰り入れられるとのこと(p. 46-49)。
- ・ 2025年大会（福岡）関連： シャトルバスの予約利用が強く推奨される
- ・ 2026年大会（広島）関連： 準備のスケジュールとともに、オーガナイズドセッション、部門細分類・再々分類の検討が依頼された(p. 78-89)
(音環境のOSは持ち回りで基準検討小委員会の担当年度であることを確認した。資料1-5)
- ・ 大賞・文化賞・教育賞の推薦依頼(p. 90-109)

(候補者についてはとくに検討されなかった)

- ・ 制定から5年を経過するAIJESについて、改定・確認・廃止の検討依頼：8月末日までに事務局への回答が求められた。音環境ではAIJES-S0002-2011が該当。(p.117)
(回答内容は基準検討小委員会が担当する)
- ・ 小委員会傘下の2WGについて、会員外の委員委嘱も含め、新委員の委嘱が承認された。(p.137)
会員外の委員委嘱について、可能な範囲で学会員になって頂くよう依頼することが呼びかけられた。

4) 審議事項

- a) 子供のための音環境WGからの提案：こども家庭庁への要望書作成について
 - これまで保育園や幼稚園施設の吸音の必要性を訴えてきた経緯がある。
 - NHKから取材を受けた際、行政に要望書を出すべきではないかという提案があった。
 - 子供のための音環境WGが、音環境運営委員会から出す要望書の作成案を作ることを承認してほしい。
 - 要望書の内容が不明なので、まず要望書の案を作成し、それに対して審議した方がよい。また、学会名で要望書を出すことは非常に重い話であり、手続きも大変である。過去には個人名で要望書を出した例もある。
 - 学会の規定では、運営委員会の承認と理事会への報告があれば、委員長名で要望書を出すことができる。
 - 要望書の作成にあたっては過去の事例を参考にしたほうがよい。また、行政側の立場に配慮した内容や進め方をしたほうがよい。
 - 以上の議論を踏まえ、まずは子どものための音環境WGで要望書の叩き台を作成し、運営委員会でメール審議または次の会議で審議することとなった。
- b) 室内音響小委員会からの提案：国土交通省社会資本整備審議会傘下の懇談会への意見提出について
(資料1-4-1)
 - 国土交通省社会資本整備審議会傘下の懇談会で、建築分野の中長期的なあり方について議論が始まっており、意見箱が設置された。
 - この審議会には音の専門家が誰も入っていないことから、音環境運営委員会として、音環境全体に関する意見をまとめて提出することを検討したい。
 - 意見箱は200字以内の簡潔な意見が求められている。学会の委員会として出すか、個人として出すか。吸音材の認定のような個別の問題だけでなく、吸音の社会資本としての大きな意義をまとめた上で、個別の問題をトピックとして盛り込むべきではないか。住宅政策や木造建築における音環境の問題などもキーワードになり得る。
 - 過去の建築基準制度や省エネ対策に関する諮問への答申の経緯から、今回の意見提出も非常に意義のある話である。これまでの議論で音のキーワードがあまり入っていなかったため、この機会に音環境の重要性を大きな枠組みで提示すべき。各小委員会から意見を募り、運営委員会でまとめて提出する形が良い。
 - 以上の議論を踏まえ、各小委員会にも意見を募ったうえで、12月中旬の締め切りに間に合うよう、11月の音環境委員会で案出しができるスケジュールで進めることとなった。
- c) 室内音響小委員会からの提案：室内音響チュートリアルの旅費不足分について (資料1-4-2)
 - 10月に体験型のチュートリアルシンポジウムを企画しており、30名定員のため参加費からの収入が限られる。
 - 富来先生をゲストに招くための費用をシンポジウム参加費から充てるため、室内音響小委員会のメンバーの旅費が不足する。
 - 不足分を、運営委員会に配分されている旅費から前もって支出することを承認してほしい。
 - 過去数年、運営委員会全体では年度末に予算が余っている実績があることから、室内音響小委員会のチュートリアルシンポジウムに関する旅費不足分の支出が承認された。

d) 今後の運営委員会の在り方の検討

- 本議題は、昨年度の意見交換会を踏まえて議論すべきものであり、今回は議論ではなく確認にとどめる。
- 企画広報ワーキングの小柳主査にアンケート結果のまとめが依頼された（次回9月の運営委員会にて報告予定）。
- これを集中的に議論するために、1月に対面の運営委員会の開催を計画する。

5) 各小委員会・WG の活動報告

- ・今回は年度初めのため報告事項のある小委員会に限定したが、次回以降は報告フォームを用意し、全小委員会に報告してもらう予定。

① 音響数値解析小委員会（安田）

- ・6月24日に開催した「汎用数値解析ソフトウェアを用いた室内音響シミュレーション」セミナーについて報告があった。
- ・Zoomにて開催し、定員60名で満席となった。
- ・反省点として受講者の顔が見えず、ペース配分が難しかったことが挙げられる。
- ・今後アンケート結果を集計し報告する予定。

② 室内音響小委員会（上野）

- ・10月に室内音響チュートリアルを開催する。
- ・特に設計に関わる方や学生に積極的に参加してほしい。収支の関係で学生の参加が多すぎると厳しい場合があるため、まずは設計者の方への声かけをお願いしたい。

6) 他学会・研究会の予定

- ・ジョイントミーティングが12月1日～5日にハワイで開催予定。アブストラクト申し込み締め切りは7月28日。

7) 今後の開催予定

第2回 9/30（火） 17：00～19：00

第3回 11/21（金） 17：00～19：00

以上